



思いを紡ぐ 優しいあおば

あおば支援学校 学校だより 令和5年11月(第35号)

『透明人間』

副校長 佐藤 浩栄

夏休みに、写真家山本美里さんの写真展『透明人間～Invisiblemom～』が藤沢市民ギャラリーで行われました。

山本美里さんには、都内の特別支援学校に通うお子さんがいて、人工呼吸器をつけているため、毎日付き添いをしています。学校の先生からは、「教室と一緒にいるんだけど、笑ったり、しゃべったりしないで、気配を消してください」と言われた言葉をとって『透明人間』という言葉が思いついたとのことです。

その会場には、数十年前に担任をしていた時の保護者の方もいて「うちの学校でもあったわよ」と言われ「どういう時ですか」と尋ねると「修学旅行で生徒の集合写真を撮る際に。保護者の方は写らないでください、と言ってたわよ。当事者としては、つらかったと思うわ」と話されました。「そうか、そういうことか」と自分の過去を振り返ってみました。

あおば支援学校には、医療的ケアを必要とする児童生徒が通っています。医療的ケアの内容も、水分栄養の注入、吸引、気管切開部のケアなど実に様々です。医療的ケアを実施するために、教員は実技研修、講義を受講し、テストに合格しなければ実施ができません。また、学校内には看護師がおり、教員と連携しながら医療的ケアを実施しています。校外へ出かける際は、看護師も一緒にいきますが、都合がつかない場合、保護者の方に協力していただき、一緒についていていただくことがあります。本当にありがたいことです。

写真展の最終日には「トークイベント」があり、そこにも参加しました。質問の中に、「教員との関係性について」話題となり「気を使いますよ、関係性を悪くしたくないので、話を合わせるようにしています」と話されていました。過去の経験から、保護者との関係は良好だったと自負していましたが、実際どうだったんだろうと後悔してしまいました。

改めて、学校(担任)と保護者との関係、学校と地域との関係を築くためには、お互いに話し合っていくことが大切ですが、「これを話して大丈夫かな」「どこまで本音で話せばよいのかな」「相手は、笑っていたから大丈夫だったのかな」など様子を観察し想像しながら話しているのが実際なのかなと思います。できるだけ本音でお互いを尊重しながら話し合えると良いのですが、みなさんはどのように感じていますか。

日頃の様子

小学部B部門 1年生

休み時間は、友達とプレイホールで乗り物に乗って遊んだり、教室で音楽を聴いてのんびり過ごしたり、自分の好きなことをして楽しく過ごしています！

2学期になり、クラスだけでなく、学年の友だちとも遊ぶ場面が増え、お互いの教室を行き来しています。

涼しくなったことで、校外での歩行や公園遊びを楽しめる季節になりました。たくさん歩いて、たくさん遊んで、たくさん給食を食べて、毎日元気に楽しく過ごしています！

小学部 2年生

9月26日（火）に、小学部2年のAB部門で、こどもの杜に行きました。

前半は、リズムひもを持ち、輪になってダンスをしました。それから、AB部門の友達でフラフープをペアで持って歩くリレーをしました。日々の活動の積み重ねから、少しずつ友だちを意識するようになり、顔を見たり、友達に触れたり、ペースを合わせて歩いたりする姿が見られました。

後半は、室内で滑り台、木馬、吊り橋、ミニカーなど、それぞれがやりたい遊具や玩具を選んでたくさん遊び、充実した時間を過ごすことができました。

中学部A部門 1年生

休み時間の風景です。中学部A1年女子生徒2名、中学部B1年女子生徒1名と女性教員2名で、大型オセロを使ってゲームをしました。

真ん中に置いたオセロの上に順番にオセロを重ねていくのですが、20枚を超えると、積みあがったオセロタワーがグラグラしてきました。

「めざせ25枚!」「キャー!揺れてる!」と明るい声が響きました。「もう1回やる?」と聞くとみんな笑顔でうなずきました。外からみたら華やかな女子会でしょうか。ぜひ他学部の皆さんも遊びに来てほしいです。

高等部A部門 2年生

高等部A部門2年生は、B部門2年生と合同で9月25日から2週間、校内実習に取り組みました。A部門の生徒は紙すきグループに所属し、お花紙を使った手すき紙を表紙にした、メモ帳を作成しました。お花紙と水が入ったペットボトルを振って紙液を作ったり、自助具が取り付けられているスライドカッターでメモ帳の紙を切ったりするなど、他の生徒と分担・協力して作業に取り組みました。普段の授業とは違う雰囲気、働く楽しさや厳しさを学習しました。